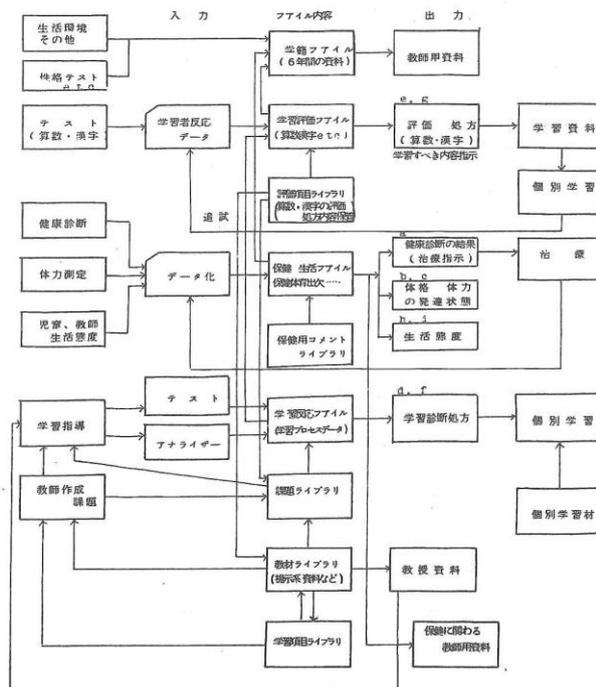




## (2) 教育情報システムの構成

クラス一人ひとりの学習評価や学習反応を教師が受け止め、さらに、記録・分析する方法は、1967年から岩田晃、後藤忠彦等が実践研究を進めている。また、その発表として川島小学校では、校内ネットワークを設置し、1978年からアナライザーで全校のクラス一人ひとりの学習反応やデータを図のように多様に教育実践資料として、教育情報システム（CMI）で保管し、学習指導で各種の活用がされていた。

ぜひ、GIGA スクール構想の基礎資料として、新しい方法と併せて、これらの実践研究例をデジタルアーカイブで調べ、分析し、よい方法を見出し、確かな指導が望まれる。



後藤、成瀬他”小学校 CMI システム”電子通信学会 ET78 (1978)

## (3) 学習指導の基礎資料

1960年代の学びが計測化された時代から現在までの学習指導に関する基礎資料（たとえば発問、くり返し学習、言葉、コミュニケーション等）を分析・評価し、教師の学習指導の支援情報として役立たせる。また、e-learning等の学びの構成（学習システム）の開発にも役立たせるべきである。

## (4) カリキュラム（一人ひとりに適した学びの提供の実践）

GIGA スクール構想では、全員一人ひとりに最適な学びの提供や、学習者がカリキュラムを各自で構成した学びや各種の指導方法が用いられる。この支援として学習者へ学びに必要な学習材、教材、資料の提供と教師へ過去の教育の方法に関する資料をデジタルアーカイブで提供する情報環境の整備が必要である。

このような学びの基礎資料としては、オープン教育や個人学習法（たとえば岡崎久先生の高校における実践例）がすでに試行されていて、これらの調査・分析が求められる。

## (5) リソースの提供と学びでの活用

GIGA スクール構想を実施するには、学習者がリソースを調べ、協働で課題を見出し、その課題を協働し話し合い等で解決するのに活用できる情報環境の整備をすべきである。

また、通信ネットワークを用いて協働し、課題を解決するためには、学びの情報広場や誹謗、中傷する発言には AI を用いて注意、消却する教育用のシステムの開発が必要である。（資料提供は、岐阜女子大学 後藤忠彦 教授）